

# 事業継続(BC)と 災害復旧(DR) 戦略を見直す



## Cohesityの主なメリット

- Cohesityのサービスとして利用可能
- 必要なときに、簡単、迅速に復旧可能
- 災害復旧オペレーションのシンプル化
- 事業継続の確保
- ダウンタイムとデータ損失の回避
- アプリケーションとデータの復旧を迅速かつ柔軟に実行可能
- TCOの削減

自然災害、サイバー攻撃、人為的なミスなど計画外の障害が発生した場合、事前の準備ができていようかが復旧と大惨事の分かれ目となります。しかし、最近行われた調査<sup>1</sup>によると、サイトの障害や災害が発生した場合、ITサービスを復旧するための「準備が非常に整っている」と感じている企業は10社中3社にすぎません。

災害復旧戦略への信頼が低い根本的な理由のひとつは、レガシー製品をパッチワーク的に組み合わせたソリューションに依存していることにあります。これらの企業は、特定の階層のアプリケーションを保護し、特定のサービスレベルを満たすことに重点を置いています。しかし、実際のアプリケーションは複数の階層にあるだけでなく、オンプレミスやパブリッククラウド環境にもまたがっていて、サービスレベルはさまざまです。

バックアップ、継続的データ保護、災害復旧の自動化のために、ばらばらの複数のポイント製品に依存することは、管理や定期的なテストを容易に実施することを困難にする複雑なIT環境をもたらします。ITの複雑化は、ダウンタイムとデータ損失の増加、そしてTCOの増加にもつながります。理想的には、これらの多くはAs a Serviceモデルによってシンプルにすることができます。

このような断片的なアーキテクチャでは、24時間365日の運用要件に対応することはできません。デジタル変革を加速するには、ダウンタイムを回避し、データ損失をなくすために信頼できるBCDR (Business Continuity and Disaster Recovery: 事業継続と災害復旧) に対するより良いアプローチが必要です。

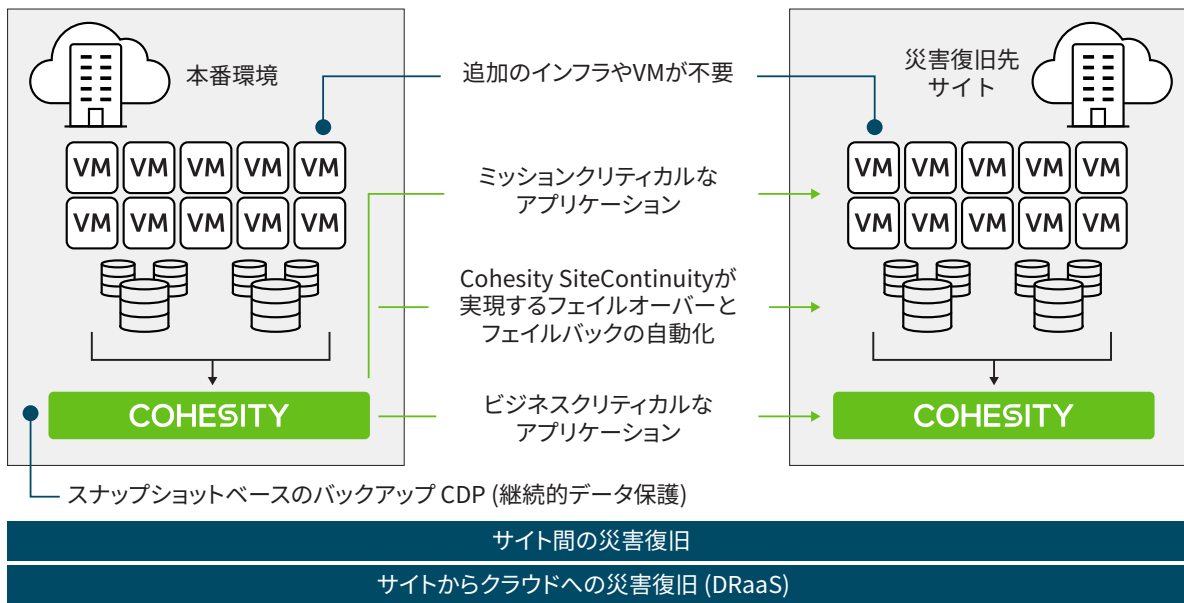
## BCDRをシンプルにするポリシー主導の統合アプローチ

クラウド化を見据えた戦略の策定は、モダンDRに欠かせないものとなっています。また、計画、メンテナンス、テストは、災害に対処するための適切な準備として非常に重要である、とForresterは報告しています<sup>1</sup>。ITインフラのモダナイズを進める上で、バックアップとDRの自動化を1つのソリューションで実現するBCDRソリューションを追加することで、備えを強化することができます。Cohesityは、スナップショットベースのバックアップ、継続的データ保護、DRフェイルオーバー/フェイルバックオーケストレーションの自動化を、ビジネスクリティカルなアプリケーション、サービスレベル、環境にまたがって統合し、ダウンタイムをほぼゼロにしてデータ損失をなくすことで、BCDRをシンプルにします。このデータ回復力の高いスタック全体は、あらゆるデータセンターに導入することができ、クラウドサービスとして利用することも可能です。

## DRの自動化で継続性を確保

攻撃者、災害、人為的なミスは予測できないため、アプリケーションとデータの復旧ソリューションは、常に最悪のシナリオに備える必要があります。Cohesity SiteContinuityは、ITサイロ、運用の複雑さ、コストを増すことなく、常時のアクセスを可能にし、お客様のビジネス継続性を向上させ、ビジネス回復力を加速させます。

1. Forrester Research. "The State of Disaster Preparedness in 2020," August 24, 2020



## 運用のシンプル化

従来のポイント製品を使った手間のかかるDR管理から解放されます。オンプレミスとクラウドの両方で、階層、サービスレベル、環境をまたがってアプリケーションとデータを保護する統合ポリシーフレームワークにより、ITとBCDR運用をシンプルにします。DRaaS (DR as a Service) を使用すれば、セカンダリサイトを排除することも可能です。Cohesityは、ジャーナルベースの継続的データ保護とDRの自動化を特徴としており、IT担当者は、異なるインフラサイロの管理や新しい仮想マシン (VM) のスピンアップ業務に煩わされることがなくなります。

## ダウンタイムとデータ損失の回避

ランサムウェアのような不測の事態による企業へのリスクを軽減するため、データ管理プラットフォームでフェイルオーバーとフェイルバックのオーケストレーションを自動化し、大規模なテストを無停止で実施することができます。

## 迅速かつ柔軟な復旧

Cohesity SiteContinuityの統合ポリシーフレームワークにより、重要なアプリケーションとデータを任意の時点と場所に柔軟に復旧することができます。数年前のデータから復旧することも、不測の事態が発生した数秒前のデータから復旧することも可能で、復旧のSLAを満たし、ビジネスの回復力を確保します。

## 総所有コスト (TCO) の削減

DR運用のために、不必要なハードウェアの購入やITメンテナンス作業を削減し、TCOを削減することができます。DRaaSオプションにより、セカンダリインフラを排除し、代わりに従量課金制のクラウドリソースを使用することで、さらにコストを削減することができます。Cohesity SiteContinuityは、すべてのアプリケーションの復旧をサポートすることにより、サイロ化したインフラを排除します。重複排除と圧縮により、ストレージコストを削減し、帯域幅を最適化します。また、データのフットプリントを削減することで、脆弱性を低減し、持続可能性を向上させることができます。

## 自由に選択可能なDR先と利用モデル

CohesityのDRソリューションは究極の柔軟性を提供します。サイト間のレプリケーションやフェイルオーバー、サイトからクラウドへのレプリケーションやフェイルオーバーなど、同じ環境であっても異なる環境であっても、あらゆるニーズに対応します。またCohesityでは、DRをセルフマネージすることも、DRaaSでサービスとして利用することもでき、ひとつのUIですべてを管理することができます。

詳細は [cohesity.com/jp/disaster-recovery](https://cohesity.com/jp/disaster-recovery) をご覧ください。

COHESITY



© 2021 Cohesity, Inc. All rights reserved.

Cohesity、Cohesityのロゴ、SnapTree、SpanFS、DataPlatform、DataProtect、Helios、およびその他のCohesityのマークは、米国および/または海外におけるCohesity, Inc.の商標または登録商標です。その他の会社名および製品名は、関連する各企業の商標である可能性があります。本資料は、(a) Cohesityと弊社の事業および製品に関する情報を提供することを目的としています。(b) 本資料が作成された時点では、真実かつ正確であると考えられていますが、予告なく変更されることがあります。(c) 本資料は、「現状有姿」で提供されます。Cohesityは、いかなる種類の明示的または黙示的な条件、表明、保証も放棄します。